

目次

資料 1	平成 28 年度農家アンケート……………	17
資料 2	市民アンケート（平成 29 年度第 1 回市政アンケート） ……	23
資料 3	名古屋の農業（基礎データ等） ……	28
資料 4	用語集……………	30
資料 5	農業振興基本方針検討会……………	32
資料 6	ご意見をお聴きした団体及びパブリックコメント……………	33

資料 1 平成 28 年度農家アンケート

市内農家の農業に対する意向を把握することを目的にアンケート調査を実施しました。

(1) 調査対象

市内で 10 a 以上の農業経営をしている農家 3,143 戸

(2) 調査時期

平成 29 年 2 月～3 月

(3) 調査方法

配布・回収すべて郵送により実施（一部持ち込みあり）

(4) 回収

調査票の回収 1,862 戸（回収率 59.2%）

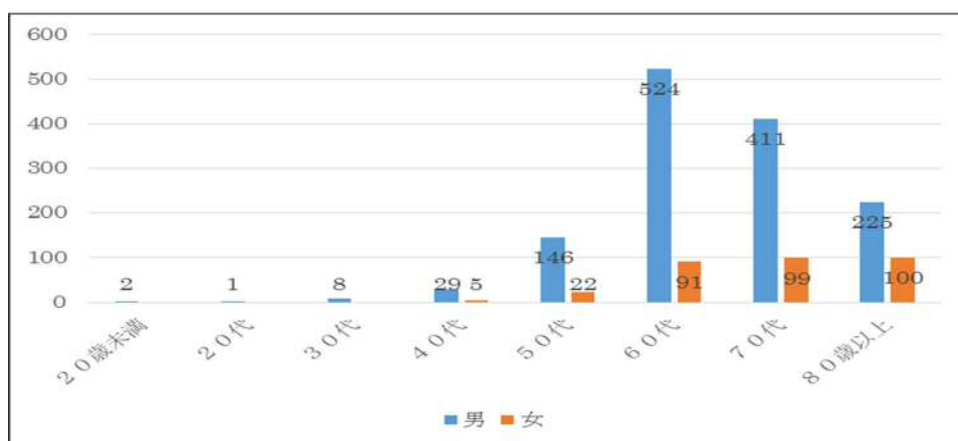
(5) その他

設問ごとに回答数が異なるため、総件数に違いがあります。

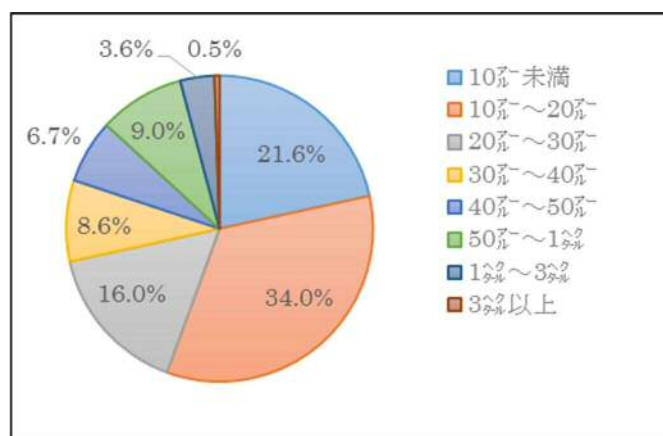
(6) 調査結果 (抜粋)

問1 あなたのことについてお聞かせください。

年齢	人数 (人)			比率 (%)		
	男	女	計	男	女	計
20歳未満	2	—	2	0.1%	—	0.1%
20代	1	—	1	0.1%	—	0.1%
30代	8	—	8	0.5%	—	0.5%
40代	29	5	34	1.7%	0.3%	2.0%
50代	146	22	168	8.8%	1.3%	10.1%
60代	524	91	615	31.5%	5.5%	37.0%
70代	411	99	510	24.7%	6.0%	30.7%
80歳以上	225	100	325	13.5%	6.0%	19.5%
計	1,346	317	1,663	80.9%	19.1%	100.0%

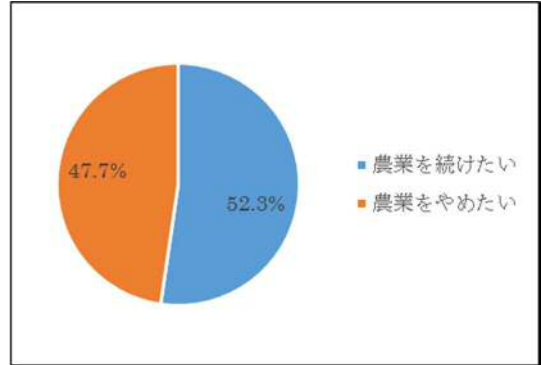


農地面積	件数 (件)	比率 (%)
10アール未満	370	21.6%
10アール～20アール	583	34.0%
20アール～30アール	274	16.0%
30アール～40アール	147	8.6%
40アール～50アール	115	6.7%
50アール～1ヘクタール	155	9.0%
1ヘクタール～3ヘクタール	62	3.6%
3ヘクタール以上	9	0.5%
計	1,715	100.0%



問3 今後のご自身の農業経営についてお聞きします。あなたの考えに近いと思うものに○をつけてください。

今後の農業経営	件数 (件)	比率 (%)
農業を続けたい	938	52.3%
農業をやめたい	855	47.7%
計	1,793	100.0%



問3-A あなたは農業経営をどのように続けたいと思いますか。あなたの考えに近いと思うものすべてに○をつけてください。

	件数 (件)
経営面積を増やしたい	24
農産物の加工販売も手がけたい	15
付加価値の高い農産物を栽培したい	100
高く売れる販路を探していきたい	75
自家消費を中心にしていきたい	478
今までと同じようにやりたい	546
その他	44
計	1,282

問3-B あなたは農業を続けるにあたって、困っていることはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

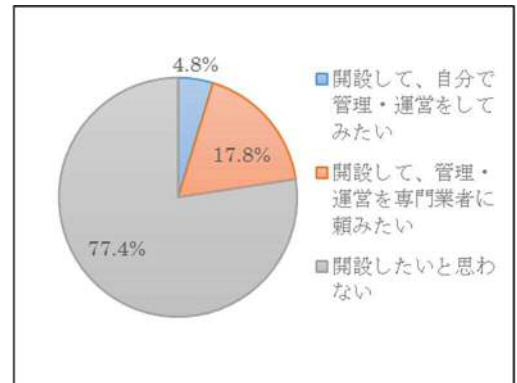
	件数 (件)
人手が足りない	120
近所からの苦情が多い	82
田畑にゴミが不法投棄される	346
地域の共同作業に参加しない人がいる	19
農地について、税金が高い	361
農業機械を買い換える資金がない	110
農産物の市場価格が安定しない	111
後継ぎがない	304
健康や体力の面でつらい	389
その他	81
計	1,923

問 3-C 農業経営をやめたいと思う理由について、あなたの考えに近いと思うものすべてに○をつけてください。

	件数 (件)
人手が足りない	209
農産物価格が安く、もうからない	229
税金が高く、もうからない	192
近所からの苦情が多い	61
後継ぎがない	534
健康や体力の面でつらい	552
他に本業があり、忙しい	126
その他	64
計	1,967

問 4 あなたは、自分の農地を使って「市民農園」を開設することについてどう思われますか。あなたの考えにもっとも近いと思うものに○をつけてください。

	件数 (件)	比率 (%)
開設して、自分で管理・運営をしてみたい	81	4.8%
開設して、管理・運営を専門業者に頼みたい	303	17.8%
開設したいと思わない	1,316	77.4%
計	1,700	100.0%

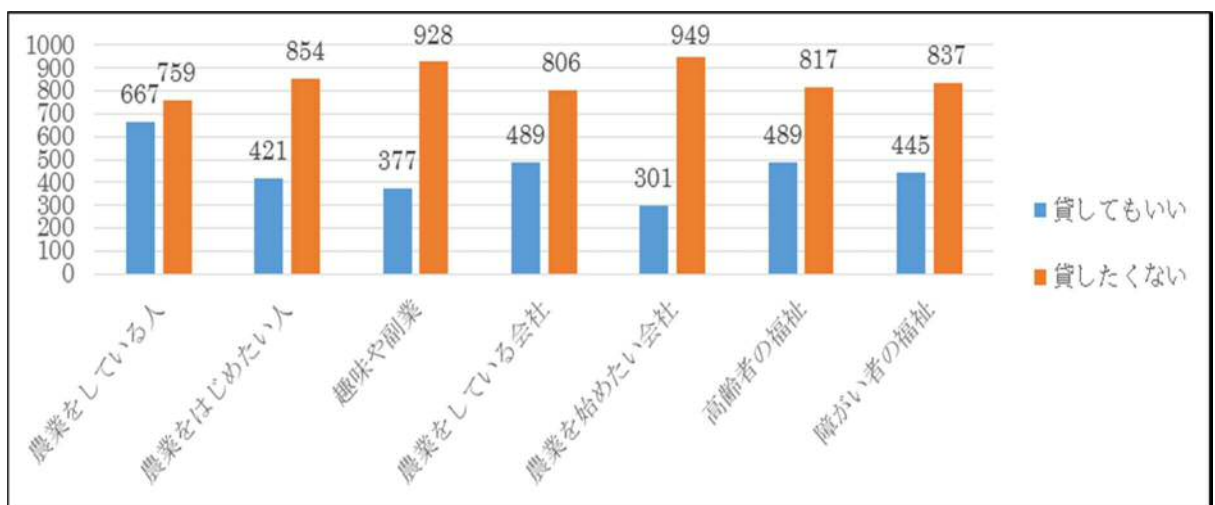


問 4-E 市民農園を開設したいと思わない理由について、あなたの考えに近いと思うものすべてに○をつけてください。

	件数 (件)
農地はすべて自分の農業のために使っているから	548
農地を人に貸すことに抵抗があるから	511
市民農園をやるのは面倒だから	370
納税猶予が受けられなくなるから	227
その他	180
計	1,836

問6 あなたは、誰になら農地を貸してもいいと思いますか。

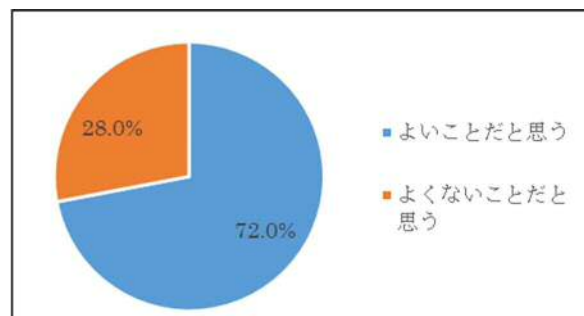
	貸してもいい	貸したくない
すでに農業をしている人（農家）	667	759
これから本業として農業をはじめたい人	421	854
これから趣味や副業として農業をはじめたい人	377	928
すでに農業をしている会社	489	806
これから農業を始めたい会社	301	949
高齢者の福祉のために農地を使いたい人や法人	489	817
障がい者の福祉のために農地を使いたい人や法人	445	837
計	3,189	5,950



問7 最近、震災などの災害が発生したときに、危険を避けるためにとっさに逃げ込む場所や、まちを元に戻していくときの一時的な資材置場の用地として、農地が注目されています。

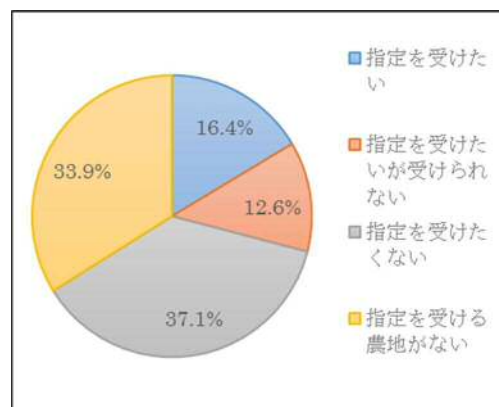
あなたは、農地がこのように使われることについて、どう思いますか。あなたの考えにもっとも近いと思うものに○をつけてください。

	件数 (件)	比率 (%)
よいことだと思う	1,182	72.0%
よくないことだと思う	460	28.0%
計	1,642	100.0%



問9 あなたは、生産緑地についてどのように考えていますか。あなたの考えにもっとも近いと思うものに○をつけてください。

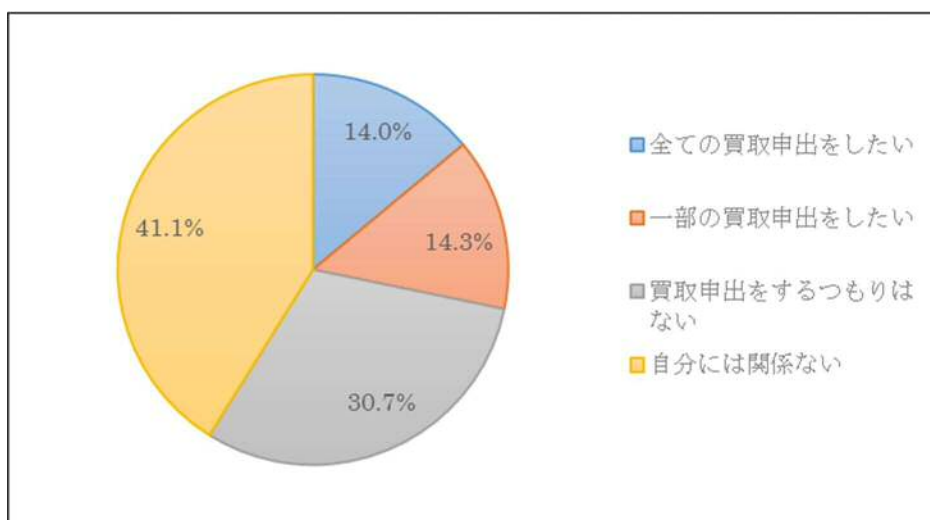
	件数 (件)	比率 (%)
指定を受けたい	239	16.4%
指定を受けたいが受けられない	184	12.6%
指定を受けたくない	540	37.1%
指定を受ける農地がない	493	33.9%
計	1,456	100.0%



問10 名古屋市では多くの方が平成4年に生産緑地の指定を受けていますが、生産緑地は、指定を受けてから30年が過ぎると、市に対して買取申出をすることができます（ただし、その生産緑地で納税猶予を受けている場合、買取申出をすると納税猶予は打ち切りになります）。

あなたは、所有する生産緑地の買取申出について、どのように考えていますか。あなたの考えにもっとも近いと思うものに○をつけてください。

	件数 (件)	比率 (%)
全ての買取申出をしたい	219	14.0%
一部の買取申出をしたい	224	14.3%
買取申出をするつもりはない	481	30.7%
自分には関係ない	645	41.1%
計	1,569	100.0%



資料2 市民アンケート（平成29年度第1回市政アンケート）

農業や農地に対する市民の意識を把握することを目的にアンケート調査を実施しました。

（1）調査対象

市内に居住する満18歳以上の市民（外国人を含む） 2,000人

住民基本台帳をフレームとする無作為抽出

（2）調査時期

平成29年7月4日（火）～7月18日（火）

（3）調査方法

配布・回収すべて郵送により実施

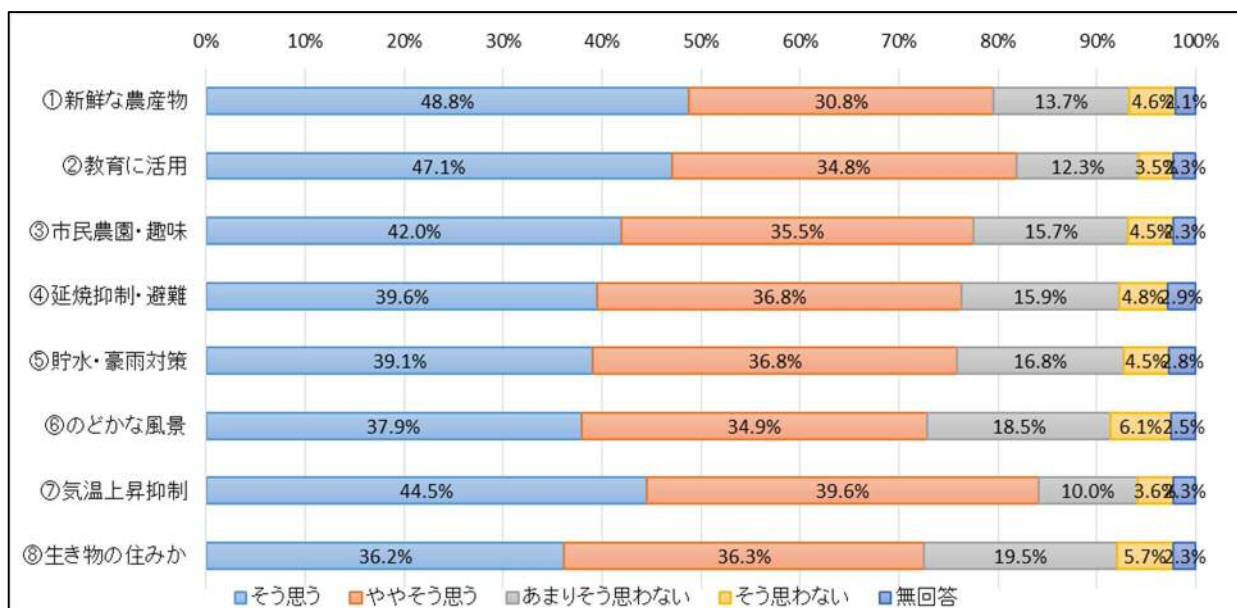
（4）回収

調査票の回収 867人（回収率43.4%）

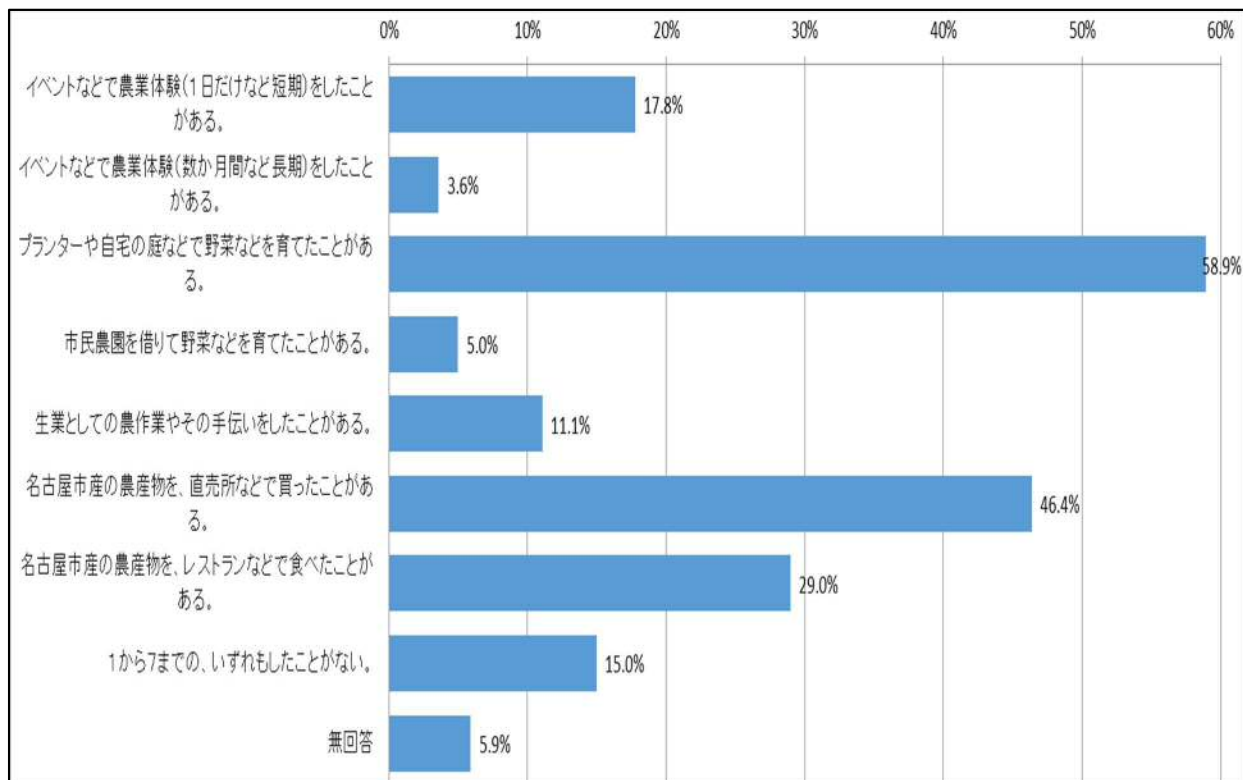
(5) 調査結果 (抜粋)

問1 あなたは、都市の農業や農地に関する次のような考え方について、どのように思いますか。あてはまるものに○を付けてください。
(～という理由により、都市にも農業・農地が必要だと思うか)

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
①近くで生産された新鮮な農産物を買ったり食べたりできる	48.8%	30.8%	13.7%	4.6%	2.1%
②子どもに農業体験をさせるなど、教育に活用することができる	47.1%	34.8%	12.3%	3.5%	2.3%
③市民農園などで農業体験をしたり、趣味で土いじりを楽しんだりできる	42.0%	35.5%	15.7%	4.5%	2.3%
④農地は火災が広がるのを抑えたり、緊急の避難場所になったりする	39.6%	36.8%	15.9%	4.8%	2.9%
⑤農地は雨水をたくわえ、豪雨などの被害をやわらげる機能がある	39.1%	36.8%	16.8%	4.5%	2.8%
⑥農地のあるのどかな風景は、都市にやすらぎをもたらす	37.9%	34.9%	18.5%	6.1%	2.5%
⑦農地には、緑地や水辺のように気温上昇を抑える機能がある	44.5%	39.6%	10.0%	3.6%	2.3%
⑧農地は虫や魚など、様々な生き物のすみかになっている	36.2%	36.3%	19.5%	5.7%	2.3%



問2 あなたはこれまで、次のようなことをしたことがありますか。(〇はいくつでも)



問3 あなたは、都市の農業や農地に関する次のような考え方について、どのように思いますか。あてはまるものに○を付けてください。

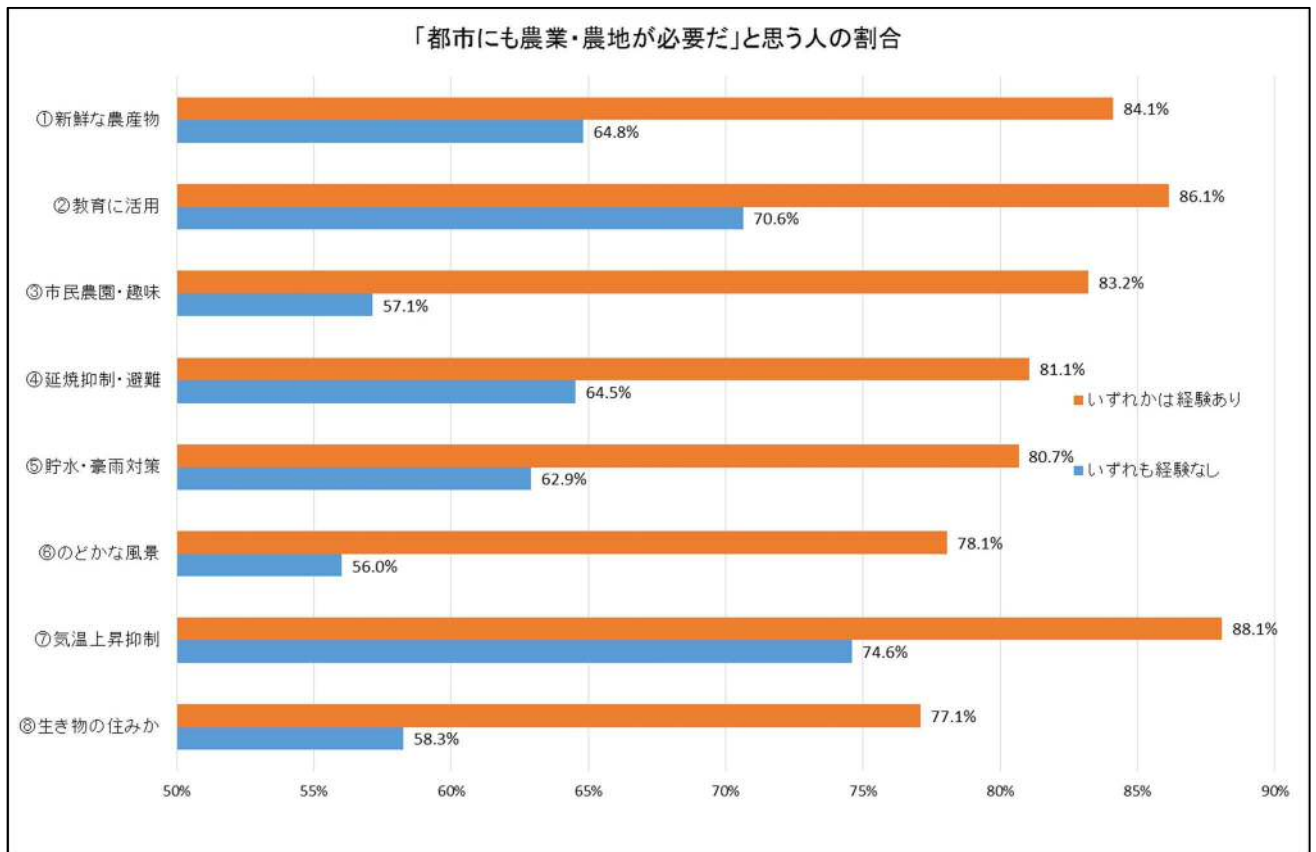
	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
①イベントなどで、農業体験（1日だけなど短期）をしてみたい。	18.3%	27.9%	28.3%	19.3%	6.2%
②イベントなどで、農業体験（数か月間など長期）をしてみたい。	6.0%	13.4%	41.2%	33.1%	6.3%
③プランターや自宅の庭などで野菜などを育ててみたい。	37.8%	32.6%	15.7%	10.3%	3.6%
④市民農園（10平米から20平米程度の面積）を借りるなどして、野菜などを育ててみたい。	8.9%	17.5%	34.6%	34.0%	5.0%
⑤農地（100平米から200平米程度の面積）で、趣味の農業を楽しんでいきたい。	4.5%	10.5%	35.1%	44.1%	5.9%
⑥農地（2,000平米以上の面積）で、本格的に農業を行っていききたい。	1.6%	3.7%	22.1%	66.4%	6.1%
⑦名古屋市産の農産物を、買ってみたい。	45.6%	33.7%	10.8%	6.7%	3.2%
⑧名古屋市産の農産物を、レストランなどで食べてみたい。	39.1%	33.9%	14.5%	8.2%	4.3%



考察 農業や「農」の経験がない人（問2で「1から7のいずれも経験したことがない」を選択した人）は、農業や農地が必要だと思う人の割合（問1）が特に低い。



農業や「農」の経験がある市民を増やすための施策が必要である。

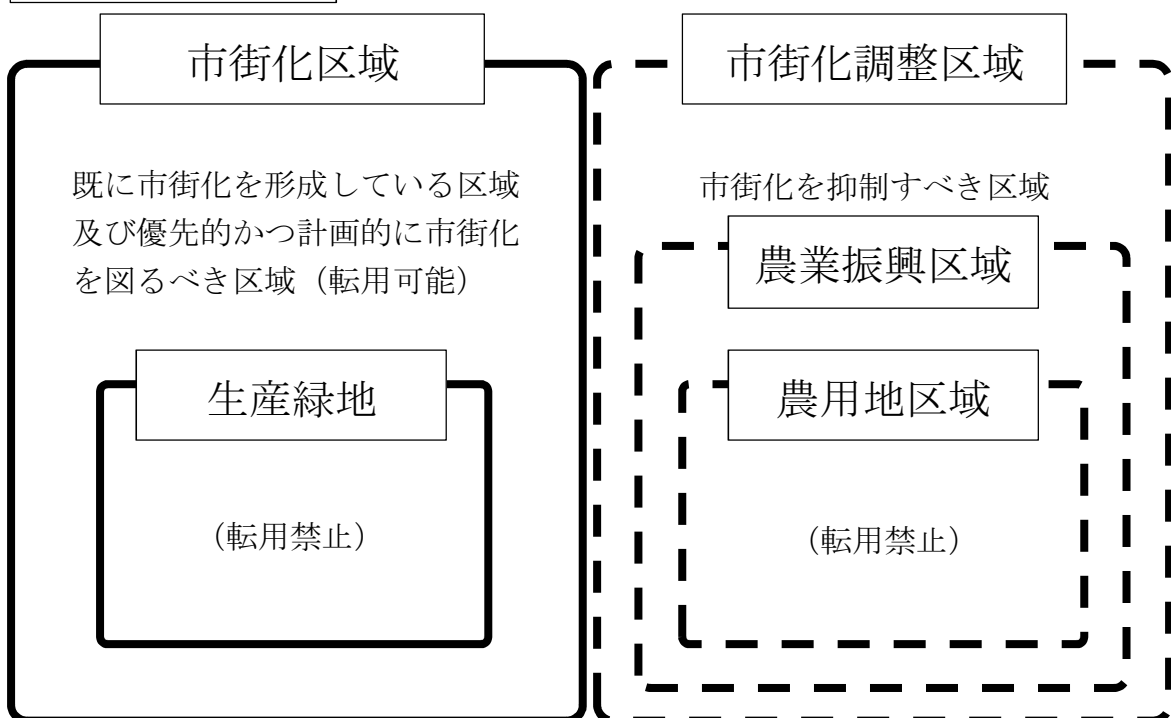


資料3 名古屋の農業（基礎データ等）

基礎データ

	平成17年度	平成28年度	増減比
農地面積 (ha)	1,710	1,282	75.0%
市街化区域	1,135	808	71.2%
生産緑地	365	270	74.0%
その他	770	538	69.9%
市街化調整区域	575	474	82.4%
農家戸数 (戸)	4,250	3,369	79.3%
農家人口 (人)	17,484	11,788	67.4%
農畜産物生産額 (百万円)	3,435	1,911	55.6%
自給率 (%)			
米	2.0	1.8	90.0%
野菜	4.9	1.1	22.4%
果実	0.5	0.4	80.0%
牛乳	2.7	2.9	107.4%
鶏卵	0.5	0.03	6.0%
市民農園区画数 (箇所)	3,291	3,680	111.8%
朝市・青空市 (箇所)	23	36	156.5%
(延べ回数)	987	1,199	121.5%

農地の区分と転用規制



農地の区分と税制

農地の区分		相続税・贈与税 納税猶予制度	固定資産税
市街化区域	生産緑地	利用できる (終身営農)	農地評価 農地課税 税額イメージ：数千円／10a
	その他	利用できない	宅地並評価 宅地並課税 税額イメージ：数十万円／10a
市街化調整区域		利用できる (終身営農)	農地評価 農地課税 税額イメージ：千円／10a

資料4 用語集

行	語句	説明
あ行	あいちの伝統野菜	愛知県が野菜を歴史的・文化的遺産として見つめるだけでなく、再び身近な野菜として利用するため、4つの定義を満たす35品種を選定した。 ①選定時点（平成14年）から50年前には栽培されていたもの ②地名、人名がついているものなど愛知県に由来しているもの ③今でも種や苗があるもの ④種や生産物が手に入るもの
	おかえりやさい	名古屋市内のスーパー・レストラン・学校給食などから出る生ごみ（食品循環資源）を堆肥化し、その堆肥を使って名古屋近郊の農家が栽培した野菜
か行	貸し農園	農地を小面積の区画に分けて、市民が農作物を栽培するために貸し付ける農園。市民の多様なニーズに応じて、農家、農協、企業、行政等と様々な主体が開設・運営している。
	口蹄疫	口蹄疫ウイルスが原因で、偶蹄類動物がかかる病気で、感染すると、発熱したり、口の中や蹄の付け根などに水ぶくれができたりするなどの症状がみられる。
さ行	市街化区域	都市計画法上の区域区分で、すでに市街化を形成している区域及びおおむね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域のこと
	市街化調整区域	都市計画法上の区域区分で、市街化を抑制すべき区域のこと
	市民水田	主に手作業で稲作をおこなう体験水田で、農家などから指導を受け、田植えから収穫までの一連の作業を通して、収穫の喜びを味わったり、水田にすむ生き物を観察することができる。港区において平成21年度から開始
	食農教育	食料を生産する農業の役割や重要性を理解してもらうために行うさまざまな教育のこと
	生産緑地地区	良好な都市環境を確保するため、農林漁業との調整を図りつつ、市街化区域農地の計画的な保全を図ることを目的に都市計画において定められる地区のこと
た行	地産地消	地域で生産されたものを、その地域で消費すること。消費者の食に対する安全・安心志向の高まりを背景に、消費者と生産者の相互理解を深める取組として期待されている。
	特定生産緑地	生産緑地については、都市計画決定後30年経過により所有者は市町村長に買取り申出が可能になるが、特定生産緑地制度はその申出可能時期を10年先送りするもの。税制上の措置等が検討されている。
	鳥インフルエンザ	A型インフルエンザウイルスの感染による家きんの疾病

行	語句	説明
な行	農業公園	農業に関する知識・技術の普及啓発とレクリエーション活動の場の提供を目的に設置された公園であり、本市には 3 つの農業公園がある。農業センター（天白区）は野菜・畜産、東谷山フルーツパーク（守山区）は果樹、農業文化園（港区）は花と水稲というそれぞれの特色を活かした施設運営を行っている。
	農業振興地域	農業振興地域の整備に関する法律に基づき、今後とも農業の振興を図るべき地域として知事が指定するもので、本市では、中川区富田地区、港区南陽地区、守山区東谷地区のそれぞれ一部が指定されている。市街化区域内には指定することはできない。
	農業体験農園	農園主の指導にしたがって決められた作物の農作業を継続的に体験するもの。入園者は入園料を支払い、農園主の指導のもと、各自の区画の中で、栽培計画にしたがって種まきや苗の植え付けから栽培管理、収穫までを体験することができる。
	農業ボランティア	農作業の忙しい時期に、植え付けや収穫などをボランティアとして手伝う人のこと。本市では、平成 13 年度から市民を対象に育成講座を開催している。
	農地バンク制度	農地所有者が耕作や管理が困難になった農地を登録し、その情報を農地の借り受け希望者に提供することで、貸借を支援する制度
	農福連携	農業分野と福祉分野が連携して、高齢者の健康や生きがいの向上、障害者の就労訓練・雇用の場などとして、農業を活用すること
	農用地区域	農業振興地域内で、今後、長期間にわたり農業上の利用を図るべき土地として市町村が定めて設定する区域。宅地等への転用に厳しい制限がある。
は行	ふれあい農園	農家が栽培した農産物を、畑で収穫する体験を通じて、農業とふれあい、とれたての新鮮な味を楽しんでもらう名古屋市の収穫体験事業

資料 5 農業振興基本方針検討会

「名古屋市農業振興基本方針 なごやアグリライフプラン」の改定にあたり、農家や学識経験者等からなる検討会を開催しました。

(1) 検討委員

氏 名	所 属 等
いしはら としひろ 石原 俊洋	食の6次産業化プロデューサー なごやか農楽会会員・チャレンジファーマーカレッジ修了生
かない しげと 金井 重斗	認定農業者（果樹主体型）、前農業委員会農政部会長
くのう けんじ 久納 健司	株式会社マイファーム執行役員
すずき せいいち 鈴木 聖一	認定農業者（施設野菜、露地野菜、水稲）
たかとり ゆみこ 高取 由美子	農村生活アドバイザー 認定農業者世帯員（作業受託主体型水稲、露地野菜）
にしほり すきえ 西堀 すき江	東海学園大学健康栄養学部管理栄養学科教授 同大学副学長
○ むかい きよし 向井 清史	名古屋市立大学大学院 経済学研究科 特任教授
やまぐち よしひろ 山口 義博	認定農業者（露地野菜）
やまだ もりかず 山田 盛和	なごや農業協同組合 代表理事専務
よしの たかこ 吉野 隆子	オアシス 21 オーガニックファーマーズ朝市村 村長

(注) ○印は会長。委員名は50音順、敬称略

(2) 開催日

年 月 日	回 数
平成 29 年 5 月 26 日	第 1 回
平成 29 年 6 月 28 日	第 2 回
平成 29 年 7 月 26 日	第 3 回
平成 29 年 8 月 31 日	第 4 回
平成 30 年 2 月 6 日	第 5 回

資料6 ご意見をお聴きした団体及びパブリックコメント

「名古屋市農業振興基本方針 なごやアグリライフプラン」の改定にあたり、関係団体からご意見をお聴きするとともにパブリックコメントを実施しました。

(1) ご意見をお聴きした団体

種 別	名 称
農業委員会	名古屋市農業委員会
農業協同組合	天白信用農業協同組合 なごや農業協同組合 緑信用農業協同組合
土地改良区	小川土地改良区 海東土地改良区 協和土地改良区 茶屋後土地改良区 茶屋新田土地改良区 富田町土地改良区 西福田土地改良区 藤高土地改良区

(注) 名称は各種別ごとに 50 音順

(2) パブリックコメント

ご意見の募集期間：平成 29 年 12 月 21 日から平成 30 年 1 月 26 日まで

ご意見の提出方法：持参、郵便、ファクシミリ、電子メール

ご意見の提出件数：8 件

名古屋市農業振興基本方針
なごやアグリライフプラン

平成 30 年 3 月改定
名古屋市緑政土木局都市農業課

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目 1 番 1 号
電話 052-972-2462 FAX 052-972-4141
電子メール a2461@ryokuseidoboku.city.nagoya.lg.jp